会員リレーエッセー ◆◆159◆◆

故郷は遠きにありて重きもの

武藤　一彦（白山市・小児科）

一九四七年生まれの団塊世代も、定年を迎える時期となった。昨年、横浜で学会があった時、高校時代の同級生三人でミニ同窓会を開いた。私は、かつて住んでいた家を見に行った時の報告をした。バスの道路から外れ、縦横に続く階段道を登りながら、いつになく不安を抱えていた。数年前に来た時、いくつかの家にはすでに人が住んでいないような雰囲気があったが、今回は、その数が増えている印象を受けたからである。家に近づくにつれて、不安がさらに大きくなった。昔、懇意にしていた家が二軒、その入り口が蔦にからまれ、人がいない様子がうかがわれた。二百四十段の階段を登り切り、かつての自宅の玄関が見える位置まで来て、まず音楽が聞こえ、洗濯物が目に入った。明らかに誰かが住んでいた。安堵の気持ちがあふれてきた。

私の祖父母が、この高台に居を構えた理由を聞いたことはない。戦時中は、軍艦入港時、将校用の下宿をしていたという。その家も一度火事に遭い、父は事情で手放したが、十九歳まで住んでいた私には、大事な故郷である。多くの思い出と共に、朽ち果てていく運命と分かってはいたが、人の気配に安堵した複雑な思いは、故郷を捨てた者のみが感じるその重さゆえであろうか。

歳と共に、生まれ育った故郷が恋しくなるのはどういう現象であろうか。親はすでに亡く、親に会いたいという気持ちではない。どちらかと言えばその土地の風景の懐かしさと、かつての思い出に心奪われるのである。高校を卒業し予備校への通学路であった電車駅までの町筋のお店も、現在はほとんど営業をやめ、普通の家並みが続くのみとなった。それでも行った時は、昔の思い出を掘り起こしながら歩いている自分に気付く。

生まれ育った横須賀の町は、事件がある度にデモ隊が臨海公園を埋め尽くしたが、住民はデモ隊よりも見物人になる人が多かった。基地で働き、生活の糧とする人たちの心の複雑さを思った。

原稿募集中

趣味や旅行記、医療・福祉に関してや平和、環境問題についてなど、会員寄稿をお待ちしています。事務局の杉野までご連絡ください。076（222）5373

聞き書き　近江町市場・今昔　その8　最終回

商店街の衰退と近江町市場

井沢　宏夫（金沢市・内科）

「近江町市場の歴史と発展」を〝聞き書き〟してきたが、〝おしまい〟に最近三十年の経過について書きたい。

昭和五十年代後半（一九八〇年代）の日米間の深刻な貿易摩擦（日本の輸出超）は、アメリカから「日本国内の流通の規制緩和」を強く迫られ、従来商店街を保護してきた「規制」が、酒、米、タバコなどから順次撤廃されていった。「大規模小売店舗法」の廃止に至り、郊外にはショッピングセンターや大型量販店が野放図に開店され続けた。

一方では、都市郊外の道路網やインフラが整備されて、都市住民は近郊の団地や郊外住宅地に引っ越していった。客層を大量に郊外店に奪われ、街中の商店街の客足は途絶え、多くの小売店が廃業を余儀なくされ、それぞれが専門小売店や老人世帯などが多数を占め、それに対応して気軽で安価な飲食店や、料理の手を省く簡便な加工食品が普及しだし、日常の家庭の食生活も変化した。

乾物店の壁一面には棒鱈が吊され、近江町市場も徐々に年の瀬の装いへ

最近では街中に生き残っていた中規模のスーパーマーケットの「店じまい」が目立ち始めている。その一方、雨後の筍のように大企業傘下のコンビニが数多く出店され、野菜やサラダ、惣菜や種々の加工食品の品揃えはミニスーパーの趣きである。

これら人口の郊外への流失、周辺商店街の疲弊、世帯構成の変化、食生活の変化は、主に「新鮮な食材を豊富に」提供する近江町市場にとって極めて大きな「環境変化」である。近江町市場を訪れる客数は、最盛期の三分の一程度に減少より一層の観光地化が危惧される。観光客の増加は海鮮丼屋などの飲食店の増加に繋がるが、本来の「市民の市場」としての繁栄には結びつかない。青果物や鮮魚の小売店が連なっていて、掛け声が飛び交い活気がある賑やかな景観が近江町市場を支えている。何代も継承された老舗と言えども、市場の「環境変化」に伴い次第に「跡継ぎ」不足が深刻になっている。

〝市民の台所〟を支える「近江町市場」への「期待と信頼」は、現代も変わらないものがあるが、実際に足を運ぶ回数は昔ほど多くはない。市場の光景は、「底引き」や蟹の〝解禁〟の時期のテレビのローカル番組で見かけるばかりである。市民にもっと身近にもっと日常的に「近江町市場」を意識し、ワクワクして出かけたくなる買い物先としてアピールできないものか？

三百年の歴史の「近江町市場」は、通うほどに、その〝食材の奥の深さ〟に魅せられるのである。

（おわり）

11月上旬に解禁されたカニを目当てに、客足はぐっと増える

SUDOKU　数独

二重枠（2つあります）に入った数字の合計はいくつになるでしょう。

【ルール】
①空いているマスに、１から９までの数字のどれかを入れます。
②タテ列（９列あります）、ヨコ列（９列あります）、太線で囲まれた３×３のブロック（それぞれ９マスあるブロックが９つあります）のどれにも１から９までの数字が１つずつ入ります。

（答え3面）

パズル制作／ニコリ

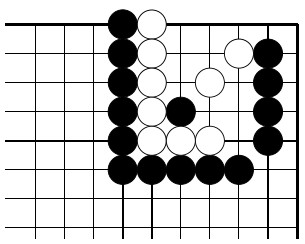
9			5				4	6
	6			4	□			5
		2			1			
5			9			1		
	4			3			5	
		1			2			7
			8			5		
7				2			6	
6	8		□		3			4

囲碁　中級編

■出題　九段　石榑郁郎

黒先　8分で二、三段以上

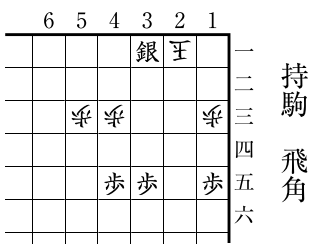
〈ヒント〉黒一子をすぐに動くのは失敗します。



（解答は３面にあります）

将棋　中級編

■出題　九段　西村一義



〈ヒント〉飛車と角の協力です。10分で二段

（解答は３面にあります）